

●金庫ニテ現金領收後誤謬ヲ發見シタルトキ整理手續(二十四年六月大藏省令第一五號)

明治二十二年、藏省命第十六號ニ依リ發シタル返納告知書ニシテ金帳ニ於テ現金領收濟ノ後誤謬ヲ發見シ其全部若クハ一部ヲ歲入ニ編入ヲ要スルトキ整理手續左ノ通り定ム

第一條 返納告知書ノ金額全部誤謬ニ係ルトキハ當該仕拂命令官ハ該告知書別符裏面ニ誤謬ニ付歲入ニ編入スル旨ヲ記入シ署名捺印ノ上歲入ノ調定官ヲ經テ之ヲ收入官吏ニ交付スヘシ

返納告知書ノ金額一部誤謬ニ係ルトキハ當該仕拂命令官ハ該告知書別符ノ寫ヲ作り其裏面ニ返納額ノ内若干ハ過納ニ付歲入ニ編入スル旨ヲ記シ署名捺印ノ上別符本書ト割印シテ歲入ノ調定官ヲ經テ之ヲ收入官吏ニ交付スヘシ

第二條 收入官吏ハ別符若クハ別符寫ノ交付ヲ受ケタルトキハ一般ノ順序ニ依リ收入簿ノ登記ヲ了シ之ニ現金拂込書ヲ添ヘ當該金庫ニ拂込ムヘシ

第三條 金庫ハ前條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別符若クハ別符寫ニ依リ當該仕拂命令官ニ係ル雜部金ヨリ該金額ヲ拂出シ更ニ現金拂込書ヲ以テ歲入ニ編入ノ手續ヲナスヘシ但該返納告知書裏面ニ仕拂命令官某ノ作リタル別符若シクハ別符寫ニ依リ歲入へ組換タル旨ヲ記入シ別符若クハ別符寫ト共ニ之ヲ保存スヘシ

●仕拂命令濟額報告書様式(三一年九月大藏省訓令第六一號)

大藏省所管經費仕拂命令官
當省所管經費仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シタル仕拂命令濟額報告書(恩賞諸務ヲ除ク)左ノ様式ニ依リ調製シ翌年度六月七日以内ニ其廳ヲ發シ報告スヘシ(様式略)

前項報告ノ後科目誤謬ノ訂正ヲ爲シタルモノアルトキハ其都度科目金員及事由ヲ詳悉シタル訂正報告書ヲ差出スヘシ

但明治二十三年訓令第五十一號同二十四年訓令第三十六號同第三十七號同三十五年訓令第三十六號同三十八號同二十六年訓令第五十八號同三十年訓令第三號同第二十五號同第六十九號爾今廢止ス

●月計對照表金員外ノ誤謬發見ノ場合取扱方ノ件(二十四年一月大藏省訓令第四號)

出納官吏、金庫出納役
歲入歲出金月計對照表ニ出納官吏ニ於テ證明ノ後金員外ニシテ誤謬ノ(押印誤脱等ノ類)アルコトヲ出納官吏金庫ノ間ニ於テ發見シタルトキハ其誤謬ヲナシタル方ニ於テ其理由ノ證明書ヲ作り各其對照表ニ添付方取計フヘシ

●歲出金月計對照表ノ件(二十七年五月二十五日大藏省主計局通牒)

金庫 出納 役
歲出金月計對照表ハ仕拂豫算額ニ異動アリテ仕拂命令受領濟額並現金仕拂額ナキ月ニ在リテハ調製スルニ及ハス又仕拂豫算額並仕拂命令受領濟額ナクシテ現金仕拂額ノミアリタル月ニ在リテハ式ノ如ク甲乙號ヲ調製シテ仕拂命令官ノ證明ヲ受クヘキモノトス

●經費被詐取ノ場合検査院へ報告ノ件(三十五年三月七日第二二號大藏總務長官通牒)

大藏省所管各廳
今般會計検査院長ヨリ當省所管經費仕拂上被詐取ノ事實發見ノ場合ニハ其事實直ニ報告スヘキ旨照會有之候ニ付右ノ場合ニハ貴廳ヨリ直ニ同院へ御報告相成度

●會計規則第六十七條ノ検査員任命ノ件(二十三年四月大藏省訓令第五五號)

明治二十三年度以降内國稅徵收費所屬總務ニ係ル明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十七條ノ検査官吏及第百條第一項第二項ノ場合ニ要スル官吏ハ仕拂命令被任者ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

五七七

●歲出簿樣式中番號記入方ノ件(二六年二月一六日乙發第四四一號長崎縣照會)

本年貴省訓令第五十二號歲出簿樣式中番號欄へハ何種ノ番號ヲ記入スヘキモノナルヤ又同樣式中仕拂豫算額ハ本年度ニ在テハ二十六年十二月三十一日ノ殘額ヲ仕拂命令濟額ハ二十七年一月一日分ヨリ登記スル義ナルヤ

回答(二六年二月二日坤第二九二五號主稅局回答)

仕拂豫算ノ増減等本省達若ハ指令ニ係ルモノハ其番號支出ニ在テハ仕拂命令番號縣限リノ處分ニ係ルモノ(流用又ハ計畫分配等ノ類)決議書ノ番號又仕拂豫算額及仕拂命令濟額ハ二十六年十二月三十一日迄ノ合計額ヲ記入相成可然

●歲出簿樣式中月計累計記入方ノ件(二九年七月二日收發甲第九二號秋田縣照會)

明治二十六年十二月大藏省訓令第五十二號ヲ以テ稅關經費及內國稅徵收費歲出簿等樣式相定メラレ居候處右樣式ニ依レハ終始付ケ込ミノ式ニテ月計ヲ付記スヘキモノニ無之候得共毎月計算書調製及金庫月計對照表突合等ノ必要有之ノミナラス帳簿整理上頗ル便宜ト被存候間一ヶ月ノ支出ヲ終ルトキハ單線ヲ橫畫シ其下ニ月計及累計ヲ付シ整理致度候條右樣記帳致候モ差支無之候ヤ

回答(二九年七月二日坤第九二〇四號主稅局回答)

月計及累計ヲ付記スヘキハ當然ノ義ニ付御見込ノ通り御取扱相成可然

●國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル件(四〇年三月法律第三一號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準額ニ付テモ亦同シ

第二條 法令ノ規定又ハ行政上ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生

スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ納期ノ分納額ニ合算ス

第三條 地租ノ稅額ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用セス其ノ稅額及毎納期ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五厘トシテ計算ス

第四條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ之ヲ五厘トシテ計算ス
國庫ノ收入金ニシテ收入印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納メシムルモノニ付テハ第一條及前項ノ規定ヲ適用セス

一筆ノ土地ノ地價ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ切リ上ケテ一錢トス

前三項ノ外國庫ノ收入及仕拂上本法ノ規定ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第五條 本法ハ明治四十年度分ヨリ之ヲ適用ス

第六條 明治三十五年法律第二十二號ハ明治四十年度分ヨリ之ヲ適用セス但シ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニシテ同法第七條ノ規定ニ依ル更正ヲ了セサルモノニ付テハ仍同法ノ規定ヲ適用ス

第七條 本法ノ規定ハ府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ適用ス

●明治四十年法律第三十一號第四條第二項ニ依ル命令ノ件(四〇年三月勅令第九八號)

國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ明治四十年法律第三十一號ノ規定ヲ適用セス

- 一 沒收金
- 二 切手及印紙類賣下代金
- 三 缺損補填金
- 四 切手貯金拂込金
- 五 貨幣交換差金

六 外國貨幣ヲ基礎トスル收入及仕拂金

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争ノ件(三三年六月勅令第二八〇號)

政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニシテ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競争ニ付スルコトヲ得

前項ニ依リ契約ヲ爲シタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ各省大臣ヨリ會計検査院ニ通知スヘシ

●政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件(二三年九月勅令第一九三號)

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲ爲スコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

●官有ノ建物等公用ノ爲メ賣渡貸渡ノ場合隨意契約ノ件(二六年一二月勅令第二二八號)

官有ノ建物及其附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

●國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ノ貸付ニ關スル隨意契約ノ件(三〇年二月勅令第一五號)

國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其

ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

●政府ニ於テ直接ニ從事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ニ關スル隨意契約ノ件(三四年二月勅令第八號)

政府ニ於テ直接ニ從事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附則

明治二十九年勅令第二百八號同年勅令第二百八十號明治三十年勅令第四百六十號及明治三十三年勅令第四百號ハ之ヲ廢止ス

●工事請負契約解除後再契約ニ關スル件(三七年二月勅令第五四號)

戰時ニ際シ政府ノ都合ニ依リ工事請負ノ契約ヲ解除シタル後更ニ其ノ工事ニ着手スルトキハ前契約ト同一又ハ之ニ相應スル割合ニ依ル條件ヲ以テ同一請負人ニ之ヲ請負ハシムルコトヲ得

●政府ニ於テ産業組合ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ爲ス場合隨意契約ノ件(三八年八月勅令第二〇一號)

政府ニ於テ産業組合ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●政府ニ於テ建築工作其ノ直接事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クル場合隨意契約ノ件(三八年九月勅令第二〇二號)

政府ニ於テ建築工作其ノ他直接ニ從事スル事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附則

明治二十九年勅令第三百十七號同年勅令第三百五十四號ハ之ヲ廢止ス

●工事用機械器具鐵軌車輛船舶建物及其附屬物其他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件(一九九年七月勅令第二六八號)

政府ニ於テ工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ府縣郡市町村及公共組合ヨリ買上ケ借入レ又ハ官有ノ機械器具鐵軌車輛船舶及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ工事ノ爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

●官廳用電信及電話ニ關スル件(三三年九月勅令第三五六號)

官廳カ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電信法ニ依ルモノヲ除クノ外總テ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルコトヲ要ス
前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ並當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ遞信大臣之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國政府ニ聘用セラレタル官吏ニ關スル件(三七年八月勅令第一九五號)

在職官吏ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタル者アルトキハ其聘用中ニ限り臨時其官ヲ増置セラレタルモノトス其現役軍人ナルトキハ定員外トス
前項ノ官吏ニ對シ必要アルトキハ特ニ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ俸給ハ之ヲ停止シ其他ノ給與ハ之ヲ支給セス

附則

明治三十三年勅令第九號ハ之ヲ廢止ス

●官吏ノ待遇ヲ受クル在職者ニシテ外國政府ニ聘用セラレタルモノニ關スル件(三七年二月勅令第二三七號)

明治三十七年勅令第九十五號ハ官吏ノ待遇ヲ受クル在職者ニシテ許可ヲ得テ外國政府ニ聘用セラレタルモノニ之ヲ準用ス

●戰時事變ニ際シ臨時特設ノ部局又ハ陸海軍ノ部隊ニ配屬セシメタル文官補

關ノ件(三八年二月勅令第四三號)

戰時又ハ事變ニ際シ臨時特設ノ部局又ハ陸海軍ノ部隊ニ配屬セシメタル文官ハ之ヲ所屬官廳ノ定員外トシ其補關ヲ爲スヲ得

●會計検査院法(二二年五月勅令第一五號)

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長二員検査官八員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官專任一員副検査官專任十六員及書記技手ヲ置ク

第三條 院長及部長ハ勅任、検査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副検査官ハ奏任、書記及技手ハ判任トス

勅任検査官書記及技手ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ二部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若クハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官・轉官又ハ休職ヲ命セラルルコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關スル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併テ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ應ニ委託スルコトヲ得但

テ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ

行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アル

トキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通

知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證據ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ定ム

●會計検査院事務章程(三二年一月勅令第四五七號)

第一條 會計検査院ニ第一部第二部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條 總會議ハ會計検査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計検査官現員ノ半數以上出席スルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ總會議ニ於テハ二名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ副検査官ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官委員又ハ副検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ叙位叙勳ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

- 一 各部ノ分課ヲ定ムルコト
 - 二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト
 - 三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト
 - 四 副検査官ニ總會議出席ヲ命スルコト
 - 五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト
 - 六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト
 - 七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト
 - 八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト
- 第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ
- 總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文書ノ訂正ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ
- 再議ノ議決ニ對シテハ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス
- 院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其執行ヲ停止シ其議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ
- 第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

- 一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト
 - 二 副検査官ニ部會議出席ヲ命スルコト
 - 三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ幫助セシムルコト
 - 四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト
- 第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審查シ其總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ
- 其部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ
- 第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其主意ヲ變更スルコトヲ得若其同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ
- 部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文書ヲ訂正スルコトヲ得
- 第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ
- 第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス
- 第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス
- 第二十二條 副検査官ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル
- 第二十三條 副検査官ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ
- 第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ従事ス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ速記ノ事務ニ従事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ事由ヲ検査成績ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シテ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セザリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ

三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

●物品會計規則(二年六月勅令第八四號)

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規定ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ應費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目録ト現在品ノ照合ヲナシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル物品會計官吏若クハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院所定ノ期限内ニ證書書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ヲ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其ノ下検査書ヲ添付付シテ之ヲ會計検査院ヘ送附スヘシ

第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第八十四條第八十五條第八十八條第八十九條第八十八條ノ二及第百二條乃至第百十條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

●出納官吏交替ノトキ事務引継手續(二三年四日大藏省訓令第五四號)

出納官吏

- 第一條 出納官吏交替ノトキハ前任出納官吏ニ於テ引繼ヘキ帳簿證憑書其他書類ノ目錄ニ通テ作リ後任出納官吏立會ノ上ニテ現物ニ照シ受授ヲ爲シタル後ヲ目錄ニ年月日及無相違受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ署名捺印シ各一通ヲ所持スヘシ
- 第二條 出納官吏ニ於テ備フル所ノ帳簿ハ引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ下ニ單線ヲ畫シ合計高ヲ記載シ其下ニ二線ヲ畫シ其次ニ年月日ヲ記入シ前任出納官吏及後任出納官吏署名捺印スヘシ
- 第三條 會計規則ニ依リ收入官吏ニ於テ調製スル所ノ毎月收入報告書ハ後任收入官吏之ヲ調製スヘシ
- 第四條 (削除)
- 第五條 收入官吏交替ノトキハ前任收入官吏ニ於テ第二號書式ノ收入計算書ニ通テ調製シ收入未済額ヲ後任收入官吏ニ引繼ヘシ
- 第六條 現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏交替ノトキハ前任出納官吏ニ於テ現在保管ノ金額及金種類ヲ示ス所ノ第三號書式計算書ヲ作リ現金出納簿ト對照シ保管金ヲ後任出納官吏ニ引繼ヘシ
- 第七條 後任出納官吏第五條第六條ノ引繼ヲ受ケタルトキハ收入計算書及保管金現在高計算書ニ式ノ如ク記入捺印シ一通ヲ前任出納官吏ニ交付スヘシ
- 第八條 二十二年大藏省令第十三號第一章ニ依リ出納官吏ヨリ金庫ニ委托シタル現金ハ前任出納官吏ヨリ後任出納官吏ニ引繼キ後任出納官吏ハ同省令第二條ニ依リ印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ
- 第九條 (削除)

(書式略)

●出納官吏身元保證金ニ關スル件(三五年八月勅令第二〇五號)

- 第一條 各省大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ニ身元保證金納付ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 各省大臣ハ相當ト認ムル期間内ニ於テ身元保證金ノ分納ヲ許可スルコトヲ得
- 第三條 身元保證金ニ代用セムトスル公債證書及土地ノ價格ハ各省大臣ニ於テ相當ト認メタル時價ニ依ルヘシ

附則

- 第四條 本令施行前身元保證金ヲ納付シタル者ニシテ其ノ必要ヲ認メサルトキハ之ヲ拂戻スヘシ
- 第五條 明治二十三年勅令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 勸業債券興業債券貯蓄債券ヲ保證金ニ使用ノ件(三六年一二日勅令第二八三號)
- 日本勸業銀行法第三十四條日本興業銀行法第十二條又ハ貯蓄債券法ニ依リ發行シタル債券ハ會計規則第六十九條及第百三條ノ保證金ニ使用スルコトヲ得
- 身元保證金ニ代用セムトスル債券ノ價格ハ明治三十五年勅令第二百五號第三條ノ例ニ依ル

附則

明治三十二年勅令第四百三十三號ハ之ヲ廢止ス

●政府ニ納ムヘキ保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件

(四一年一月勅令第二八七號)

政府ニ納ムヘキ保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ハ其ノ債權金額ニ依ル

●保管金規則(二三年一月法律第一號)

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年

ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス

但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

●政府ニテ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金寄託ノ件(二十三年一月勅令第二號)

預金規則ニ定メタルモノノ外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私

有金ハ總テ大藏省ニ寄託スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

●政府所有ノ有價證券及政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル有價證券

寄託ノ件(二十六年七月勅令第七〇號)

各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券ハ保管ノ爲メ大藏省預金局ニ寄託スヘシ

政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ大藏省預金局ニ寄託スヘシ

●保管物取扱規程(二十六年九月大藏省令第二〇號)

第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程

ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄託スルモノト官廳ヨリ寄託スルモノトノ二種ニ分テ之ヲ取

扱フヘシ

第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄託セシムルトキハ第一號書式ノ寄託通知

書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄託通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄託ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘ

シ

第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄託スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價

證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄託ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄託官廳ニ交付ス

ヘシ

第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取纏メ寄託スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯

書ヲ添付スヘシ

但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其應及取扱主任官

ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ應印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ亦同シ

有價證券ニ屬スル利札交付ノトキ其受渡ヲ證明スル爲メ權利者ハ有價證券寄託ノ際印鑑ヲ金庫ヘ差

出シ置クヘシ

第十條 權利者ニ於テ其寄託シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲ

爲シタル保管證書ヲ得テ金庫へ差出シ之カ拂戻ヲ請求スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄託シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事田ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ金庫ニ宛タル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者へ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫へ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ
一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ歳入トシテ金庫へ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ令達ニ依リ金庫ニ於テ歳入トシテ編入スヘシ

第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歳入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換スヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之レカ計算ヲ爲スヘシ又元金悉皆拂戻ニ對スル利子ハ其元金ヲ拂戻シタルトキ計算ヲ爲スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫へ差出スヘシ

第十八條 金庫ニ於テ前條第二項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利子金額ヲ算出シ式ノ如ク之ヲ記入證明

シ日本銀行又ハ其支店へ之ヲ回付スヘシ
日本銀行又ハ其支店代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利子受取人ヲシテ式ノ

如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄託シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ受ケントスルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ金庫へ差出スヘシ

金庫ハ前項ノ領收證書ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之ヲ官廳又ハ權利者へ交付スヘシ

保管證書又ハ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト交換スヘシ

第二十一條 官廳ニ於テ金庫へ寄託シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月(本文期滿失効ノ年月日トハ各其條ルヘキ)日ニ變更ヲ生スルトキハ即日其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

前項保管金ニシテ權利者自ラ其權利ヲ拋棄シ又ハ其他ノ事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歳入へ編入スヘキモノハ其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

附則
第二十二條 前條保管金ニシテ本令發布以前既ニ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日ニ變更ヲ生シタルモノハ明治二十七年二月二十八日迄ニ當該官廳ヨリ其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

第二十三條 金庫ニ於テ前條ノ通知ヲ受説タルトキハ直ニ調査シ全ク期滿失効トナリタルモノハ計算

書ヲ作り明治二十七年三月三十一日迄ニ當該官廳ニ送付シ其證明ヲ受ケ之ヲ整理スヘシ(書式略)

●寄託金ニ關スル注意ノ件(三三年五月大藏省訓令第七八號)

廳 府 縣

本年一月勅令第一號ヲ以テ公有金私有金寄託ノ義ヲ定メラレ候處各廳ニ於テ一時ノ取扱ニ係ル金錢ハ包含セサル義ナルニ往々警察官拾得金未決因所持金ノ類ニシテ直チニ交付又ハ仕拂ヲナス場合ニ於テモ「預金局」ニ寄託シ却テ事務取扱ノ不便ヲ醸スモノ有之候ニ付今後ハ數日內ニ其交付又ハ仕拂フヘキ見込ナキモノヲ「預金局」ニ寄託スル義ト心得ヘシ

●保管金金庫換及振換拂ニ其利子仕拂手續(三六年三月大藏省令第九號)

保管金金庫換及振換拂並ニ其利子仕拂手續左ノ通相定ム

第一條 保管物取扱規程第四條ニ依リ甲地金庫へ寄託シタル保管金ヲ乙地金庫ヨリ拂渡ヲ受ケントスル者ハ其事由ヲ記載シタル請求書ヲ取扱官廳へ差出スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ノ裏面ニ其事由(表背ノ金額振換拂ノ手續ヲ以テ)ヲ記載シ請求書ト共ニ甲地金庫へ送付シ其旨受取人ニ通知スヘシ

第二條 保管物取扱規程第六條ニ依リ甲地金庫へ寄託シタル保管金ヲ乙地金庫ヨリ拂渡ヲ要スルトキハ取扱官廳ニ於テ受取人ヨリ前條第一項ノ請求書ヲ徴シ之ニ其事由(前書ノ金額振換拂ノ手續ニヨリ)ヲ記載シタル保管金拂渡證書ヲ添へ甲地金庫へ送付シ其旨受取人へ通知スヘシ

第三條 前二條ノ請求ヲ受ケタル甲地金庫ハ之ヲ調査シ其請求書ニ振換拂通知書ヲ添へ乙地金庫へ送付スヘシ

第四條 乙地金庫ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタル後受取人ヨリ拂渡ノ請求アリタルトキハ適宜ノ領收證書ヲ徴シ其印章ヲ請求書ノ印章ニ對查ノ上現金ヲ受取人ニ交付シ請求書ハ當該官廳へ返付スヘシ

第五條 保管物取扱規程第六條ニ依リ甲官廳ヨリ甲地金庫へ寄託シタル保管金ヲ乙官廳ノ取扱ニ移シ

乙地金庫ヲシテ保管セシムルコトヲ要スルトキハ甲官廳ニ於テ第二條ノ保管金拂渡證書ヲ作り之ヲ甲地金庫ニ送付シ乙地金庫宛振換拂通知書ヲ得テ之ヲ乙官廳へ送付スヘシ

乙官廳ニ於テ前項ノ通知書ヲ得タルトキハ其金額ニ對スル領收證書ヲ添へ當該金庫へ送付スルト同時ニ保管物取扱規程第六條ノ送付書ヲ作り其現金ヲ寄託スヘシ

第六條 第一條ニ依リ甲地金庫ニ寄託シタル保管金ノ利子ヲ受取ルヘキ者カ乙地金庫所在地ノ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ仕拂ヲ受ケントスルトキハ保管物取扱規程ニ定メタル請求書ニ其事由(利子請求書中金額對スル利子ノ下ニ「日本銀行又ハ日本銀行」ヲ記載シ甲地金庫へ送付スヘシ)

甲地金庫ニ於テ前項ノ利子請求書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク證明シ其請求書ニ指定ノ日本銀行本支店又ハ代理店ニ回付シ日本銀行本支店又ハ代理店ハ受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ但甲地金庫ハ本文ノ請求書ヲ回付スルト同時ニ其旨受取人へ通知スルコトヲ要ス

附 則

第七條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託法(三二年二月法律第一五號)

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當

金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業爲ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非ラサレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明許三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●供託物取扱規程(三十二年三月大藏省令第六號)

第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢、有價證券ヲ謂フ

第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ヘ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代入ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額

有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込済額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 供託スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置(質權者、抵當權者等特ニ其及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名)

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後
 供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ

第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ
 銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタ
 ル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請
 求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書二通ヲ作りテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又
 ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ
 金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利
 札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作り利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ
 代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者
 ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利
 札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ
 於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條

第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡
 ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書
 ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金錢、證券若クハ
 物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作りタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ
 證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有効ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本

第三 第一、第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又
 ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ
 書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳
 又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條 第二條ノ規程ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト

能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所ヘ返還スヘシ

第十五條 供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

營業ノ保證トシテ供託シタル現金ノ利息ハ毎年一月七月ノ二期ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ權利アル者ノ請求ニ依リ拂渡ヲ爲スヘシ

第十六條 前條第一項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號一書式ノ請求書又第二項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスルモノハ同號二書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附則

第十八條 此ノ規程施行後ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ牴觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス(書式略)

大正七年三月二十日印刷
大正七年三月廿八日發行



發行所

東京市淺草區聖天町四十一番地

法政講究會

右代表者同所

神永桂四郎
電話下谷一三一三番
振替口座東京一一五八一番

著者兼
發行者

印刷者

東京市牛込區新小川町三丁目四番地

稻葉敏

東京市本所區表町四十六番地

片山又三郎

電話本所三六七〇番

定價金貳圓貳拾錢

I/2M65

終